



## Red Hat build of OpenJDK 11

Red Hat ビルドの Windows 向け OpenJDK 11 の  
設定



# Red Hat build of OpenJDK 11 Red Hat ビルドの Windows 向け OpenJDK 11 の設定

---

## 法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

Red Hat ビルドの OpenJDK は、Microsoft Windows プラットフォーム上の Red Hat 製品です。RHEL での Red Hat build of OpenJDK 17 の設定 では、この製品の概要と、ソフトウェアの設定方法を説明します。

---

## 目次

RED HAT BUILD OF OPENJDK ドキュメントへのフィードバック .....	3
多様性を受け入れるオープンソースの強化 .....	4
第1章 アプリケーションのインストール済みバージョンから特定の RED HAT ビルドの OPENJDK を選択する .	5
第2章 RED HAT ビルドの MICROSOFT WINDOWS 向け OPENJDK 11 向け MISSION CONTROL の設定 .....	6
第3章 カスタマイズされたヒープサイズで実行するように RED HAT ビルドの OPENJDK を設定する .....	7



## RED HAT BUILD OF OPENJDK ドキュメントへのフィードバック

エラーを報告したり、ドキュメントを改善したりするには、Red Hat Jira アカウントにログインし、課題を送信してください。Red Hat Jira アカウントをお持ちでない場合は、アカウントを作成するように求められます。

### 手順

1. 次のリンクをクリックして [チケットを作成します](#)。
2. **Summary** に課題の簡単な説明を入力します。
3. **Description** に課題や機能拡張の詳細な説明を入力します。問題があるドキュメントのセクションへの URL を含めてください。
4. **Submit** をクリックすると、課題が作成され、適切なドキュメントチームに転送されます。

## 多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#) を参照してください。



## 第1章 アプリケーションのインストール済みバージョンから特定の RED HAT ビルドの OPENJDK を選択する

アプリケーション用の Microsoft Windows にインストールされたバージョンから、特定の Red Hat ビルドの OpenJDK を選択できます。

### 前提条件

- OpenJDK の複数の Red Hat ビルドがシステムにインストールされている。

### 手順

1. Windows システム管理者としてログインします。
2. コマンドラインで、プロンプトを **C:/** に設定します。
3. **dir /b /s java.exe** を実行して、システムにインストールされているすべての OpenJDK をリスト表示します。
4. 環境変数の値を、Red Hat ビルドの OpenJDK（または JRE）インストールパスに設定します。

```
setx -m JAVA_HOME "Path to Java"
```

パスにスペースが含まれている場合は、短いパス名を使用します。

5. コマンドプロンプトを再起動して、環境変数を再読み込みします。
6. パス変数の値を取得します。

```
echo %JAVA_HOME%
```

7. パス変数の値を設定します。

```
setx -m PATH "%PATH%;%JAVA_HOME%\bin";
```

## 第2章 RED HAT ビルドの MICROSOFT WINDOWS 向け OPENJDK 11 向け MISSION CONTROL の設定

この手順では、Microsoft Windows 用の OpenJDK 11 の Red Hat ビルドに Mission Control をインストールして設定する方法を説明します。

### 前提条件

- Red Hat ビルドの OpenJDK 11 for Microsoft Windows がシステムにインストールされている。

### 手順

- アーカイブをデプロイメントします。
- Mission Control** ディレクトリーで、JMC クライアント実行可能ファイルを開きます。

```
C:\java-11-openjdk-11.0.3.7-1.windows.redhat.x86_64>cd missioncontrol
C:\java-11-openjdk-11.0.3.7-1.windows.redhat.x86_64\missioncontrol>dir
Volume in drive C is Windows
Volume Serial Number is 3C29-16DB

Directory of C:\java-11-openjdk-11.0.3.7-1.windows.redhat.x86_64\missioncontrol

05/29/2019  07:38 PM    <DIR>          .
05/29/2019  07:38 PM    <DIR>          ..
04/14/2019  05:14 PM                61,813 artifacts.xml
05/29/2019  07:37 PM    <DIR>          configuration
05/29/2019  07:37 PM    <DIR>          dropins
04/14/2019  05:14 PM            129,520 eclipsec.exe
05/29/2019  07:37 PM    <DIR>          features
05/29/2019  07:37 PM    <DIR>          install
04/14/2019  05:14 PM            424,424 jmc.exe
04/14/2019  05:14 PM              1,015 jmc.ini
05/29/2019  07:37 PM    <DIR>          legal
05/29/2019  07:37 PM    <DIR>          p2
05/29/2019  07:38 PM    <DIR>          plugins
05/29/2019  07:38 PM    <DIR>          readme
                4 File(s)        616,772 bytes
                10 Dir(s)  124,454,580,224 bytes free

C:\java-11-openjdk-11.0.3.7-1.windows.redhat.x86_64\missioncontrol>jmc
```

- コマンドラインで、**jmc** または JMC 実行可能ファイルへのフルパスを入力して JMC サービスを起動します。

```
JAVA_HOME\missioncontrol\jmc.exe
```

- JMC Client 画面で、File メニューから新しい接続を作成し、JVM を選択して JMX コンソールを起動します。

その結果、プロセッサ、メモリー消費、Java ヒープの使用、JVM CPU 使用率などの概要ページを用意する必要があります。

## 第3章 カスタマイズされたヒープサイズで実行するように RED HAT ビルドの OPENJDK を設定する

Red Hat ビルドの OpenJDK 11 for Microsoft Windows は、カスタマイズされたヒープサイズを使用するように設定できます。

### 前提条件

- Java Runtime がインストールされていること

### 手順

1. Java コマンドラインに最大ヒープサイズオプションを追加してアプリケーションを実行します。たとえば、最大ヒープサイズを 100 メガバイトに設定するには、**-Xmx100m** オプションを使用します。

```
$ java -Xmx100m <your-main-class>
```

### 関連情報

- 詳細は <https://docs.oracle.com/javase/8/docs/technotes/tools/windows/java.html#BABDJJFI> を参照してください。

改訂日時: 2024-05-10